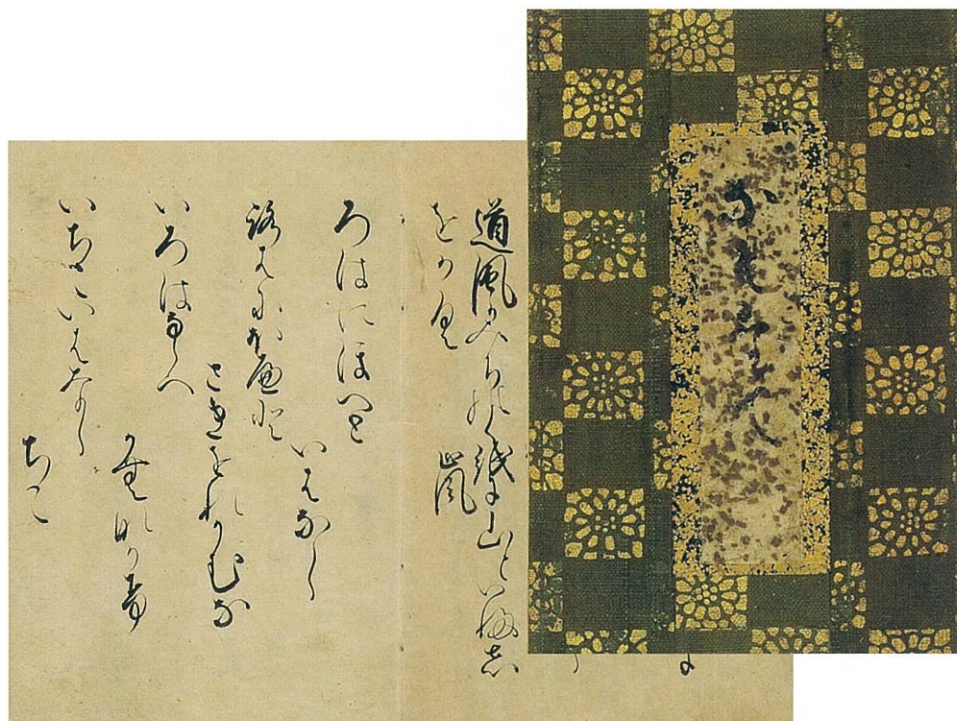


やまとの名品 天理図書館



なぞだて

後奈良天皇自筆 1冊

永正13年(1516)

縦12.7cm 横8.7cm

「なぞだて」は謎をかけるという意味で、中世に発展したことは遊びの一つ。連歌のさまざまに技法が取り入れられ、貴族の間で盛んに行われるようになった。

本書は後奈良天皇（一四九六～一五五七）が皇太子であった二十一歳の時、なぞだて（なぞ）を選んで一冊にまとめたもの。巻末に「永正十三年正月廿日」との日付と花押があることなどから後奈良天皇の自筆とされる。謎本の代表として有名な『後奈良院御撰何曾』のもとになった。

取められた一九三題は問いと答えからなる二段謎である。そ

の内の三題を紹介する。

●問「梅の木

をみづにたてかへよ」答「海」
梅の木偏を水（ゝ）に入れ替える。

●問「十里のみちをけさ帰る」

答「にぎりぎけ」
十里^に二^に五^に里、「け」と「さ」がひっくり帰り（返）つてさけ（酒）。

●問「はにはは二たびあひたれ

どもちちには一どもあはず」
答「くちびる」
当時「はは」は「フアフア」のような発音であったという。「フアフア」ならば唇が二度合う。「ちち」は唇を開けたま

永正十三年正月廿日



ま一度も合わない。

解き方の記載がないので、江戸時代になるとすでに意味がわからなくなつたものも多い。そこで解説書が生まれ現代に至るまで研究されている。

小型に仕立てられた本書は、心おぼえに手許で書きとめられた手控帳てびんごうのようなものであったのだろうか。戦乱の続いた世にあり、何事も不足しがちな宮中ではあるが、むしろ静かなのんびりとした日々ではなかったかとも思われてくる。重要美術品。

（天理図書館 瀬川浩子）

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <https://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○8月の休館日：6日～20日・31日

現在、新型コロナウイルス対策のため、サービス内容や開館時間が通常と異なる場合があります。詳しくはHPでご確認ください。